

外務省	內務省	武官省	留學省	二省	兵省	航空省	存本	松本	規課	法務局	經理局	扶助部	交通科	復員科	復員局	人務局	業務局	渉外局	總務局	總務局	存部	史部	醫務部	翻譯部	資料部	文書部	次官	大官
-----	-----	-----	-----	----	----	-----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-----	-----	-----	-----	----	----

史書印

政號普通電報

宛第一復員省

東海文電第一號

東海復員監部總務部長

官部文書電冠詞尤ノ如

東海總電第一號 (總務一般渉外事項高等官人事)

東海文電第一號 (廣務判任人事)

東海交通電第一號 (復員業務)

東海資電第一號 (軍需品)

東海世電第一號 (世話業務)

東海経電第一號 (経理)

東海医電第一號 (醫務)

東海法電第一號 (法務)

終

一三
二二
一一
二二
三三
四四
五五
六六
七七
八八
九九

(以) 昭南丸 四一七噸 一五〇人 高雄 十月二十九日浮揚

昭和二十一年四月

(5) 鳥羽丸 七〇〇噸 三五〇人 基隆港内 主機関及舵取機

換裝中引揚ヲ要ス 昭和二十一年六月

(6) 帝祥丸 八〇〇噸 四〇〇人 高雄港内 爆撃ニ依リ外板ニ

小破孔アリ且全焼沈座露出引揚準備中 昭和二十一年七月

(7) 帝楓丸 七一〇噸 三五〇人 高雄港内 爆撃ニ依リ後

部ニ大破孔ヲ生ジ沈座露出上月四日浮揚セリ 昭和二十一年八月

(8) 山澤丸 六八〇噸 三五〇人 高雄港内 爆撃ニ依リ艦ニ

破口ヲ生ジ沈座露出 昭和二十一年九月

計八隻 三七二五七總噸

十月以降調査ノ結果來年九月迄ニ引揚修理スベキ船舶左ノ如ク

0302

変更ス

二、各船ノ修理範圍

航海保安ニ堪ル必要最小限度ノ修理ニ止

ムルモノトシ入渠ハ萬止ム得サルモノ以外ハ實施ス

三、修理工場及位置

(一)海軍高雄工部部

臺灣鐵工場

臺灣「トック」高雄工場

以上

高雄 但シ大型船用「トック」ナシ

(二)臺灣「トック」會社

在基隆 大中型「トック」アリ

四、右工場ニ於ケル使用人員 設備 資材

(一)高雄方面修理工場ニ於ケル破損船艇機関修理ニ従事スル作業人

員一〇〇〇(軍人三五〇 軍属三〇〇)一般三〇〇ナルモ今後作業ノ状

況ニ依リ軍人及一般募集ニ依リ工員充實可能

(二)基隆方面八五〇(軍人三〇〇 軍属一五〇)一般四〇〇ナルモ今後依

業ノ狀況ニ依リ軍人及一般募集ニ依リ工員充實可能

(3) 資材 海軍高確三作部 高雄鐵工場 臺灣鐵工場 統工場東
 剛 臺灣「トック」本工場 基隆大正町工場 高雄工場ノ現有設
 備ヲ全幅活用ス。「トック」ハ基隆「トック」ノ大中小型各一ヲ使用
 尚各工場共ニ「諸不明」ノ爆撃及機械類ノ疎開等ニ依リ被害前
 能力ノ「了」程度ニ減退ニアリテ未ダ作業能率半ラナルニ付強力
 ニ之ガ恢復ヲ圖ル

(4) 所要資材 新ニ調達ヲ要スルモノ中主要ナルモノハ「カールト酸
 素熔接」ヨリ燃料（「諸不明」）源及鋼材 木材（「諸不明」）施設ノ帆布
 鋼索纖維索塗料類ニシテ帆布 鋼索纖維索外ハ臺産又ハ
 臺島内既接收済資材ヲ使用スルト共補給ヲ要セス
 五、引揚作業ニ必要ナル設備ノ計畫

設備器具（起重機 船唧筒潜水機等）ハ主トシテ從來ノ海
 軍關係及一部民間業者ノモノヲ使用スル組織トシテモ船舶救難修
 理部ヲ臨時編成シ海軍高確警備符司令部ヲ本部トシ高
 雄基隆 島公 天公 和船救難修理部 海軍兵

0304

力(軍属ヲ含ム)餘儀ノ状況ニ(一部海軍兵民間リヤベトシ)強力ニ推進中ニシテ現在之ニ從事中ノ軍人軍属ハ約四ノ口名ニ達シアリ但シ馬公救難修理部ノ編成完結ナルモ現在作業ヲ實施シテス

六、所要經費及手持豫算ヲ以テ支拂ノ能否

資材ハ既接收ノモノヲ極力流用スルトシ部外發注請負ヲ要スル經費約三五〇万圓(物價高騰ニ依リ金額モ増大)ニシテ現在手持資金凍結セラレ支拂不能トナレリ

追テ高雄商港ハ航路ヲ啓開セバ大型船舶ノ出入不可能ナ

ルヲ以テ第一次外又復(六ノ口噸)ヲ揚解撤費シテト

トシ之ニ要スル經費モ本次ノ經費ニ包含シアリ

七、高警府策。三ノ口三番電(十月)ヲ拘ラズ九月下旬ノ狀況ニ

於ケル計畫案ナル處手持資金凍結セラレタル外所要ノ設備資材(運搬用車輛ヲ含ム)ハ中國陸海空軍陸臺三島

要員トシテ政府ノ各部門ニ分割接收セシレ何レ我カ自國ニ
處理シ得ケルニ至リツツアリ。カモ中國側ニ於テモ、武装解除終
了後、我カ方ノ技術勞力ヲ利用シ各種戰災復舊ニ事
中、遊艇ノ引揚修理ヲ最重視シツアルヲ以テ中國側ヨ
リ統一シ運送機関ノ設置ヲ促シ、我カ方ノ程度ニ於テハ
之カ引受、資金、資材ヲ圓滑迅速ニ配當スルノ件ニ關シ折衝
ノ豫定ナリ

中央ニ於テモ聯合軍司令部ニ全カ之ヲ諒解援助セラルマ
配慮煩度

曩ニ中國側ヨリ武装解除終了後、我カ軍勞力使用ニ關ス
ル命令ト關聯ハ隻ノ引揚（修理ヲ含マズ）作業ハ昭和二
十一年二月頃迄ニ完了スルヲ以テ、隻ニ全カヲ傾注シツタ
レ、又隻ノ引揚修理ヲモ實施シ、又第一項船舶引揚作業實

0306

施^ニ當^リ發見^ス工事^ノ爲^ニ修理長時日ヲ要スルマ^ノアル場合^ノ代^リ
船^{トシテ}作業^ノ合理的^ニ運送^ヲ實施^スノ豫定^{ナリ}

(1) 國華丸 五〇〇噸 二五〇人 基隆港内 爆撃^ニ依^リ

(2) 泥座露出 昭和二十一年十月
ランシツ(ニ語不明)丸 七〇〇噸 一ニ〇〇人 高雄港内 爆

撃^ニ依^リ船尾^ニ破^ク口^ヲ泥坐露出 昭和二十一年十月 油
槽船

(3) 榮邦丸 五〇〇噸 一〇〇人 高雄港内 爆撃^ニ

依^リ泥坐露出 昭和二十一年十月 油槽船

(4) 黒潮丸 一五〇噸 二〇〇人 高雄港内 爆撃^ニ

依^リ外殼^ニ破^ク口^ヲ泥坐露出 昭和二十一年十月 油槽船

(5) 榮三丸 六八〇噸 二五〇人 高雄港内 爆撃^ニ

依り中央部天破口泥坐露出 昭和二十二年一月
計 五隻 一、二、九、八、〇、〇、噸

本件八月二十七日高警府第〇七一三一九番電ニ依リ（二語不
海軍次官及海軍南京連絡部長宛報告齊ニ付第七
高警府第〇三一〇二五番電（十月二日）ニ貴地海軍側ニ照
會アリ度

通電先 次官 支總

(終)

0308

一般ニ良ク軍ノ團結ヲ維持シテリテ其ノ一絲不紊ナル統制ハ中
國側官民ニ少カズ好感ヲ與ヘアリ

然レドモ復員長期ニ亙ルニ於テハ逐次思想的問題ヲ醸成スルニ
至ルベク華北共產地區ニ於テハ特ニ然リ

尙軍保有ノ糧食ハ各軍手持概ネ一ヶ月ナルモ山岳河南
衡州地區ハ既ニ使用シ盡シ目下中國側ノ供給ヲ受ケツツアリ
テ來春迄ノ補給ハ特別ノ困難ヲ豫想セラル

(1) 華中、華南北部併印

殆ド全部ノ武装解除完了シ集中營生活ニ移リ配船ヲ待機

シテリ

(2) 華北

京津地區ノ部隊ヲ除キ米ヲ武装解除完了セズ
中國側ノ命ニ依リ其ノ進駐迄鐵道其他要地ノ警備ニ任

0310

ジツツアルモ共產匪ノ來襲ニ依リ頻次ノ應戰ノ由ナキ實狀ニ
アリ 十二月上旬迄ニ判明セル損害 戰病死約ニニ〇〇
戰傷約ニニ〇〇ヲ下ラズ 外ニ行方不明一六〇〇ニ達シ中國
軍ノ進駐ハ米ダ速カニ期待シ得ズ

(3) 臺灣

細部不明ナルモ約六萬内外武装解除ヲ完了セルモノ如シ
ニ居留民ノ狀況

一部特ニ現ニ津浦線沿線ニ於テ共匪トノ混乱ノ渦中ニアレモノヲ
除キ一般ニ比較的嘖調ニ集中營生活ヲ實施シ來ルモ保有糧食
茲ニ手持金ノ缺乏セルト高度ノ物價騰貴ニ依リ生活逐次窮乏
シツツアリテ華北ニ於テハ嚴冬到來ト共ニ一部憂慮シツアル状態
ニ在リ 尚輿地ヨリノ引揚民中ニ無ニ物ノ者尠カラズ
臺灣ノ居留民ノ現地殘留ニ関シテハ交渉中ナリ

0311

三、歸還輸送ニ就テ

塘沽、秦皇島、青島及上海ヨリ實施セラレツテトニハ、
日現在還送人員一ニハ、
近ク連雲港モ水車「L、S、T」ノ配船ヲ見ル運ビアリ
文華中、華南地區對スル「L、S、T」ノ配船モ中國及水國側
ノ絶大ナル好意ニ依リ遠カラズ大規模ニ實施ヲ見ルニモトシテ
想セラル

但シ山西、河南、湖南等、奥地軍民ノ港灣地區ノ前送ハ中
國側中央幹部ノ格別ナル好意モ拘ラズ匪狀特ニ其ノ交通破
壊ハ徐州以北、石家莊以南ノ京漢線ノ徹底的破壊注ニ膠濟
線ノ部分的破壊、其他ノ現地事情ニ依リ未ダ進捗ヲ見ル
ニシテ、
至ラサルモ歸還ノ促進注ニ現地治安ニ鑑ミ早急ナル實現ニ全幅
ノ努力ヲ傾注シツテ、特ニ鐵道部豫ノ勞苦ハ涙クマシキモノ

0312

丁リ

又居留民婦女子傷病兵並ニ内地緊要ナル人員ノ優先還

送ニ関シテハ極力努力セントス

四、武装ヲ解除スル軍隊ハ中國側ノ各種勞役ニ從事セシメラルモ
將兵克ク全高ヲ體シ一部ノ部隊中ニ積極的ニ道路修築等
公益事業ヲ企畫實施スルモノ等アリテ現地住民トノ關係ハ概ネ
圓滿ナリ

又交通通信其他ノ技術要員トシテ徵傭セララル者約七萬
四千(内軍人四萬弱)馬取扱自動車運轉等ノ爲中國
軍ニ徵傭セララルモノ約三萬アリ

五、共產黨匪ノ活動ハ華北地區ニ於テ特ニ活潑化シツツアリテ重要
鐵道幹線ノ破壞城市攻撃等我が軍民ニ及ボス影響大ナ
ルモノアリテ現在棗莊臨城地區ノ軍民ハ其ノ禍乱中ニアリ

0313

然レドモ匪軍ハ武力攻撃ヨリ逐次(二語不明)エ作ニ轉移シ我ガ軍民
 ノ生活環境ノ悪化ニ由ジ各種エ作ヲ實施シツツアリ
 而シテ極メテ少數ナルモ一端未小人員ニ於テ其ノ乗ズル所トナリシモ
 ノアルヲ遺憾トミアリ
 (但シ協同社傳フル朝日新聞所載ノ如キ事實ナシ念ノ爲メ)
 六、状況以上ノ如ク軍ハ中國終ニ米側指導者ノ理解アル態度ノ下有
 二困難ヲ排シニヨリ萬軍民ヲ無事故國ニ還送スルキ最後ノ任務
 完遂ニ努力シツツアリ
 還送人員ノ救恤ニ関シ一層ノ御配慮ヲ懇願ス

(終)

0314

平文普通電報

宛 次 号

朝電等三三九號

朝鮮軍残務救護班長

一	昭
二	三
三	二
四	一
五	二
六	三
七	四
八	三
九	二
十	一
十一	二
十二	三
十三	四
十四	三
十五	二
十六	一
十七	二
十八	三
十九	四
二十	三
二十一	二
二十二	一
二十三	二
二十四	三
二十五	四
二十六	三
二十七	二
二十八	一
二十九	二
三十	三
三十一	四
三十二	三
三十三	二
三十四	一
三十五	二
三十六	三
三十七	四
三十八	三
三十九	二
四十	一
四十一	二
四十二	三
四十三	四
四十四	三
四十五	二
四十六	一
四十七	二
四十八	三
四十九	四
五十	三
五十一	二
五十二	一
五十三	二
五十四	三
五十五	四
五十六	三
五十七	二
五十八	一
五十九	二
六十	三
六十一	四
六十二	三
六十三	二
六十四	一
六十五	二
六十六	三
六十七	四
六十八	三
六十九	二
七十	一
七十一	二
七十二	三
七十三	四
七十四	三
七十五	二
七十六	一
七十七	二
七十八	三
七十九	四
八十	三
八十一	二
八十二	一
八十三	二
八十四	三
八十五	四
八十六	三
八十七	二
八十八	一
八十九	二
九十	三
九十一	四
九十二	三
九十三	二
九十四	一
九十五	二
九十六	三
九十七	四
九十八	三
九十九	二
一百	一

一 朝鮮軍京城連絡班ハ米軍ノ命ニ依リ二十日十七時京城

出發釜山ニ向フ

二 釜山連絡班(五八名)ハ引續キ在地ノ見込ナリ

三 イミクケトミ 中佐ハ二十六日出發上京ノ豫定

終

略 號

至 急 電 報

昭和二十一年二月二十六

一一二五
一一一四
八五三〇
三三〇〇
點受

7

宛 次 官

朝鮮軍管區京城連絡部長

朝鮮京城連絡部菅井少將以下十四名ハ本二十四日博多ニ歸還ス

(終)

0317